

教職支援室便り (4月号)

令和5年 4月 14日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808



教職支援室担当者あいさつ

教職支援室を担当します、曾我文敏（そが ふみとし）です。本年度も、教職課程の学生の皆さんをはじめ、多くの方々への支援に努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、この教職支援室便りについては、本年度も毎月第2金曜日に発行していきます。教員採用選考試験に関する情報、試験に向けて取り組む学生の皆さんの様子、教職課程の授業、教育に思うこと、教育に関する様々な情報等について発信していきます。教職支援室便りが、多くの皆様に読んでいただけるよう、内容を工夫しながら、作成に取り組んでいきたいと思っております。

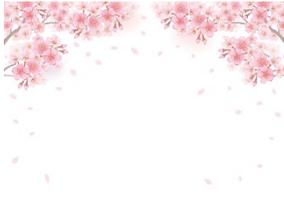


入学された皆さんへ

4月4日(火)、宮崎公立大学の入学式が行われました。入学された皆さんに、心からお祝いを申し上げます。宮崎公立大学での学びに、大いに期待されていることと思っております。本学の建学の理念・目的(宮崎公立大学は、広く知識を授け、深く専門の学術を教授研究し、高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた生涯学習の振興、産業経済の発展及び文化の向上に貢献することを目的とする。)や、人材育成目標(国際的な視野、幅広い知識と確かな専門性、言語によるコミュニケーション能力を備えた上で、人間文化の現代的課題を探究でき、グローバル化する世界で多様な人々とともに主体的に活動できる人材を育成する。)を理解された上で、自己の学びの目標を達成できるよう、勉学に励んでいただきたいと思っております。

また、4月5日(水)には、新入生を対象に「教職課程の履修及び教職支援」についての、オリエンテーションも行われました。教員免許を取得するための単位数、教育実習、教員採用選考試験合格実績、教職支援室の主な支援内容、学校現場での体験活動、小学校教諭免許状取得等についての説明を熱心に聞いていただきました。公立大学において、教職を目指す学生の皆さんは、様々な課題を克服しながら、目標に向かって進んでいます。私は、学生の皆さんの「教師になりたい」という、熱い思いを大切にしたいと思っております。学校現場は、多くの問題や課題を抱えていることは事実ですが、それを乗り越えようとする先生方がおられます。「教師の仕事は大変だが、それ以上に魅力のある仕事である。」という教職の魅力を、学生の皆さんに伝えることができると願っています。どんなに時代が変わろうとも、教師としての使命感や情熱は、これからも大切にされなければならないと考えます。

入学された皆さんの中にも、これからの学校教育を担う方がおられます。教職への思いのある方は、教職支援室に来てください。心を込めて、支援をしていきたいと思っております。



昨年度・教職支援室活利用者数 「延べ773名」

昨年度も、多くの方々に教職支援室を活用していただきました。本当に感謝の気持ちで一杯です。コロナウィルス対策の中、電話やメール等で相談された方を含めると、3月31日現在で、「延べ773名」の皆様にご利用していただきました。

教職支援室の責務は、本学の学生の皆さんはもちろんのこと、卒業生、学校現場の先生方、教育関係機関の皆様等への支援であると考えます。具体的な支援としては、教職への理解を深める教職課程の授業（生徒指導、道徳教育、教育実習、教職実践演習）、教員としての資質・能力の向上を目指す教職特別講座、日々の相談支援活動、地域貢献を目的とした講義・講演活動などの取組です。本年度も、充実した支援に取り組みます。



4月の教職関係説明会

4月11日（火）教育実習説明会（4年生対象）

本年度教育実習に取り組む4年生を対象に、その目的や意義、事務手続き等について説明します。教育実習は、専門職として教職を志望する学生の皆さんが、大学等の授業で習得した知識・技能を踏まえて、教育の現場で実際に、授業や学級経営（ホームルーム経営）等の教育活動を体験することにより、教師として必要な知識、技能、態度、心構え等を修得するために行われます。また、これらの教育活動を通して、教育者としての使命感や、教職に対する意識の高揚を図る機会でもあります。

4月18日（火）介護等体験説明会（3年生対象）

本年度介護等体験に取り組む3年生を対象に、その目的や意義、事務手続き等について説明します。義務教育に従事する教員が、個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を、深めることの重要性を踏まえ、教員の資質向上及び義務教育の一層の充実を図る観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする人に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの方々との交流等を体験させることを趣旨としています。

4月25日（火）教職関係説明会（2年生対象）

教職をめざす2年生を対象に、教職全般について説明します。学校教育の課題、教職課程の授業内容、教員採用選考試験の状況等について、質問を受けながら進行します。特に2年生は、これまで教職支援室との接点がなかったことを踏まえ、きめ細かな説明に努めたいと思います。

道徳の教科化に思う！（シリーズ71）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、「道徳科における発問を考える」をテーマに、その4として「読み物教材の特質と発問の起点」について掲載します。

◇ 読み物教材の特質と発問の起点

読み物教材を活用した道徳科の授業では、そのストーリーに沿って発問されることが多い。つまり、発問が時間的な流れに沿って構成され、教材のはじめの部分に、その起点が置かれるということである。この発問構成は、授業の「ねらい」に迫ることができることを前提とすれば、児童生徒にとっては、教材内容をわかりやすく、理解しながら学習することができるなど、効果的な面もある。

ところで、読み物教材はその特質により、大きく2つに分類されると考える。一つは、登場人物が判断に迷い葛藤したり、価値を実現したりするなど、人間の強さや弱さが表現されている教材であり、二つは、「自然愛護」、「感動、畏敬の念」などの価値について、登場人物の豊かな心（人間尊重の精神）が、全体的に終始表現されている教材である。

ここで、教材の特質と発問の起点の関係について触れたい。具体的には、児童生徒の学習欲求を踏まえながら、教材の特質を生かすために、教材のどの部分に発問の起点を置くかということである。教材のはじめの部分に（時系列的に）、発問の起点を置くことを認めつつ、教材の特質を生かし、より効果的に、弾力的に「ねらい」に迫るため、他の部分に置くことも、教材研究の一要素と考えるのである。

次に、教材のはじめの部分に（時系列的に）、発問の起点を置かない2つの事例を示す。

1 発問の起点を問題場面に置く事例・・・読み物教材「手品師」

・・・小学校高学年 内容項目A－（2）「正直、誠実」

(1) 教材内容（概略）

腕はいいが、あまり売れない手品師がいた。ある日、しょんぼりとしている少年と出会う。そこで手品師は、少年に様々な手品を見せる。二人は仲良しになり、手品師は、明日も手品を見せる約束をして別れる。その日の夜、友人から大劇場への出演の話聞かされる。少年と約束した日と同じ日であることから、手品師は悩みに悩むが最後は大劇場への出演を断り、少年との約束を守る。

(2) 発問構成（主な発問等）

Q. 一番考えてみたい場面を発表してください。考えたい場面がいくつか出てきたときは、希望が多い場面から話し合うことにします。

- ・友人から、大劇場への出演を聞く場面
- ・はじめて少年と出会って、手品を見せる場面
- ・大劇場への出演を断って少年に手品を見せる場面

Q1. 大劇場への出演の話聞いたとき、手品師はどんなことを考えたでしょう。

それぞれの考えの中には、手品師のどんな気持ちがあるのでしょうか。

補：あんなに男の子と約束したのに、大劇場へ行きたいと思うのはどうなのでしょう。

補：人は、他の人より自分のことを優先して考えるところがあるのでしょうか。

手品師は、自分のことを優先して考えてはいけないのでしょうか。

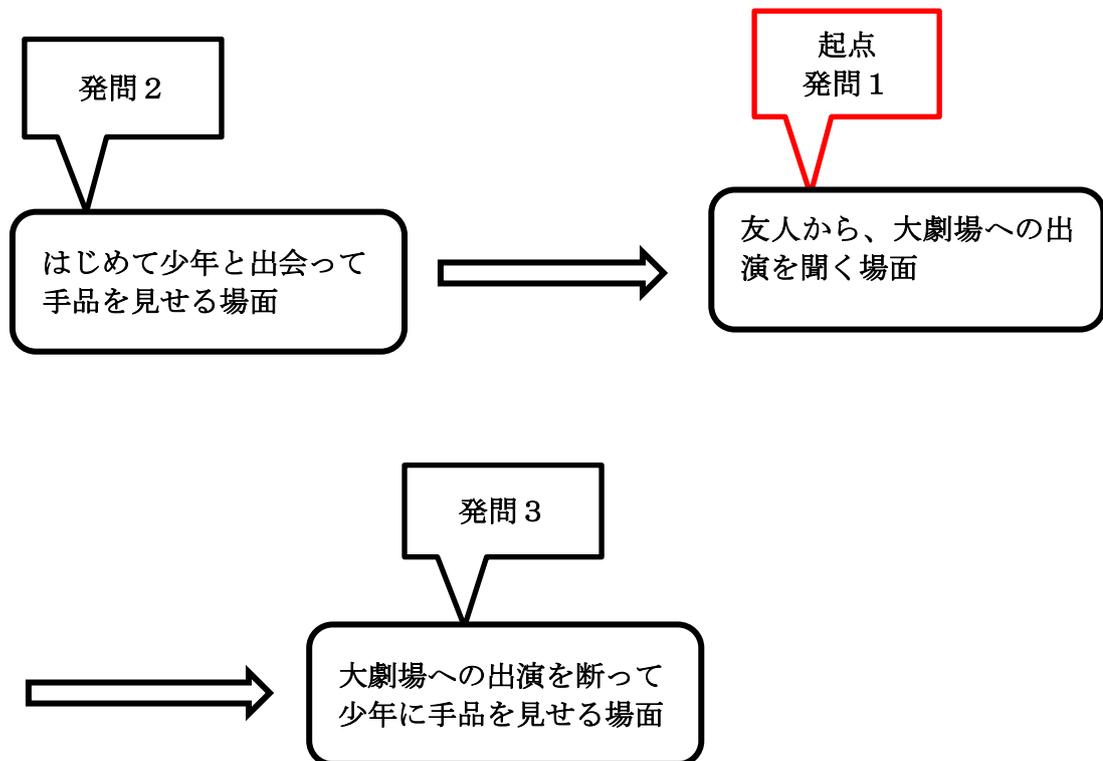
Q2. そこまで悩むのは、少年にどんな思いをもっているからでしょう。手品師が、少年と出会った場面に戻って考えてみましょう。初めて出会って手品を見せたとき、手品師は、少年にどんな思いをもったのでしょうか。

Q 3. 翌日、男の子の前で懸命に手品をしている手品師は、どんな気持ちだったでしょう。

補：手品師を突き動かしたのは、何だったのでしょうか。

手品師が大切にしていたものは、何だったのでしょうか。

補：人は、そこまでできるものなのでしょうか。



2 発問の起点を複数の場面に置く事例・読み物教材「銀のしょく台」

・・・小学校高学年 内容項目B－(11)「相互理解、寛容」

(1) 教材内容(概略)

ジャン・バルジャンは苦しい生活のため一切れのパンを盗み、19年間刑務所に入れられる。刑期を終え出所するが、どの宿も泊めてくれない中、快く泊めてくれる司教と出会う。しかし、ジャンは銀の食器を盗むという罪を犯し逃げてしまう。

次の日、警官に捕まったジャンに対面した司教は、警官の前で銀の食器としょく台はあげたものであることを、語りかけるように話す。そのときジャンは、呆然と立ち尽くす。

(2) 発問構成(主な発問等)

Q. 司教様のしたことや言ったことの中で、考えてみたいこと(感動した・驚いた・疑問に思った場面など)を発表してください。

- ・19年間も刑務所に入っていたジャンを泊める場面
- ・銀の食器やしょく台を用意して食事を出す場面
- ・「あの食器は、私たちのものだったのだろうか。」と言う場面
- ・警官に対して、銀の食器としょく台をジャンに差し上げたと言う場面
- ・最後にジャンが呆然と立ち尽くす場面

- Q 1. それぞれの場面での司教様は、どんな気持ちや考えだったのでしょうか。
 皆さんの意見をまとめると、司教様はどんな心をもった人だったのでしょうか。
- Q 2. 19年間も刑務所に入っていたジャンを泊めた司教様の気持ちが、本当に分かりますか。泊めないと思っても、よかったのではないですか。
- Q 3. 銀の食器やしよく台をあげた司教様の気持ちが、本当に分かりますか。そこまでジャンのことを思わなくても、よかったのではないですか。
- Q 4. ジャンを呆然とさせたのは、何だったのでしょうか。
 人には、そんな優しさがあるのでしょうか。
 人は、そこまで優しくなれるものなのでしょうか。

